

株 主 メ モ

決 算 期 毎年9月30日
定 時 株 主 総 会 毎年12月
1単元の株式数 100株
名義書換代理人 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社
同 事 務 取 扱 場 所 東京都千代田区丸の内一丁目4番5号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
(同 連 絡 先) 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号
三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部
電話 0120-232-711 (通話料無料)
三菱UFJ信託銀行株式会社 全国各支店
同 取 次 所 日本経済新聞
公 告 掲 載 新 聞 決算公告につきましては、当社ホームページをご覧ください。
URL <http://www.daiichi-d.co.jp/ir/ir.html>
上場証券取引所 JASDAQ市場
証 券 コー ド 7643

※名義書換代理人UFJ信託銀行株式会社は、平成17年10月1日(土)より三菱信託銀行株式会社と合併し、三菱UFJ信託銀行株式会社となりました。

お 知 ら せ

株式のお手続き用紙(届出住所・印鑑・姓名等の変更届、配当金振込指定書、単元未満株式買取請求書、名義書換請求書等)のご請求は、次の電話及びインターネットでも24時間承っております。

電話(通話料無料) 0120-244-479 (本店証券代行部)
0120-684-479 (大阪証券代行部)

インターネットホームページ <http://www.tr.mufg.jp/daikou/>

なお、株券保管振替制度をご利用の株主様は、お取引口座のある証券会社にご照会ください。

■アンケートのお願い

当社では、株主の皆様の声をお聞かせいただくため、アンケートを実施させていただくことといたしました。お手数ではございますが、以下の方法によるアンケートへのご協力をお願いいたします。

下記、URLにアクセスいただき、アクセスコード入力後に表示されるアンケートサイトにてご回答ください。

なお、QRコード読み取り機能のついた携帯電話をお使いの方は、右記のQRコードよりアクセスしていただけます。

<https://www.e-kabunushi.com>

アクセスコード 7643



アンケートの実施期間は、本事業報告書がお手元に到着してから、約2ヶ月間(2006年2月末まで)となりますので、お早目のご回答をお願いいたします。

※本アンケートは、株式会社エーツーメディアの提供する「e-株主リサーチ」サービスにより実施いたします。

アンケートのお問い合わせ(e-株主リサーチ事務局)：03-5777-3900

<ご回答いただいた方の中から抽選で薄謝を呈呈させていただきます>



TEL 0155-24-5582 (代表)

FAX 0155-22-7257

<http://www.daiichi-d.co.jp/>

E-mail:kikaku-ir@daiichi-email.com

本誌に関するお問い合わせは、企画IR部までお願いいたします。

第51期 事業報告書

(平成16年10月1日から平成17年9月30日まで)

Frontier Spirit



証券コード 7643



基本方針

流通業界の競争を勝ち抜くダイイチの存在意義は、「消費者の毎日の食生活を豊かにするためのお手伝いをする」というスーパーマーケットの社会的役割を果たすことです。

重点方針

1. 普段の食生活の質の向上

高品質、高鮮度の商品を提供することはもとより、より安全・安心をお客様に提供し、お客様に産地表示を含めた商品に関する正確な情報を提供、残留農薬や添加物のより少ない商品を開発・提供いたします。

2. お客様の生活状況に応じた商品の提供

お客様の所得水準、家族構成などに合わせた価格、量目の商品を提供し、地域の実情にあった品揃え、サービスの提供をいたします。

3. 環境保護の重視

簡易包装の徹底などにより包装資材の使用量を減少させ、家庭ごみを少しでも減らすとともに環境汚染の原因になるような資材の使用を廃止するよう努めています。



株主の皆様へ

株主の皆様におかれましては、ますますご清祥のこととお慶び申し上げます。また、平素より格別のご高配を賜り、厚く御礼申し上げます。

さて、当社は、平成17年9月30日をもって、第51期の営業を終了いたしましたので、ここに当期の事業報告書をお届けさせていただきます。

当社を取り巻く経営環境は、依然として厳しい状況が続いておりますが、当社では、お客様の「普段の食生活の向上」をキーワードに商品の品質、鮮度の向上、品揃えの強化、接客サービスの向上等を重点目標とし、お客様の暮らしに欠かすことのできない店作りを通じて、企業収益の向上と安定的な成長の実現を目指してまいりました。

また、平成16年7月に出店いたしました「八軒店」（札幌ブロック）は、1年を経過し、8・9月度の売上高前期比が23.0%増と好調に推移しております。早期に2店舗目の出店を具現化し、札幌ブロックにおいて、5店舗売上高100億円の体制を確立すべく全力を傾注いたします。

当期の業績につきましては、売上高は前期比3.8%増の245億1千4百万円、経常利益は前期比20.6%減の3億2千2百万円、当期純利益は「アスパ店」の退店費用1億7百万円と役員退職慰労金3千7百万円等の特別損失の計上により、前期比56.0%減の9千9百万円となりました。

今後も当社は、経営環境の変化に柔軟に対応し得る強固な企業体制を確立し、さらなる業容の拡大に努める所存でございます。

株主の皆様におかれましては、今後ともより一層のご理解とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

平成17年12月



代表取締役社長 小西 保男

生活良好

をご存知ですか。当社のプライベートブランド（PB）商品です。

当社が加盟する日本オールスーパーマーケット協会が開発しています。また、「生活優選」は、地元業者と当社が開発した日配品を中心に展開しております。どちらもお客様にとって高品質で、しかもお買い求めやすい価格となっています。

生活（暮らし）良好の商品の数々



全国的に展開されるメーカーの商品をナショナルブランド商品（NB商品）と呼びます。NB商品に対して、大手卸、大手小売チェーン・食品スーパーなどが、独自に開発する商品をプライベートブランド商品（PB商品）と呼びます。独自性のあるPB商品を開発することによって価格競争力を確保し、NB商品よりも低価格で同等以上の品質を提供することで自社の収益力の向上に寄与すると同時に、消費者の嗜好に合わせて、産地・栽培方法にこだわって独自性を出し、NB商品にはない差別化を図ることができますが、認知度を高めることが今後の課題です。

スーパーマーケットにおいて、どこでも扱っているNB商品を豊富に品揃えすることが競争市場における必須条件ですが、これに加え、収益性の高いPB商品の開発により、良い商品をより安く提供することが、お客様の信頼と獲得に繋がるものと信じています。

新

店の二条通店が旭川市にオープンしました。

朝から雪が断続的に降るなか平成17年3月26日、二条通店の入口には開店を心待ちにしていた多くのお客様が並び190台ある駐車場がいっぱいになりました。

二条通店の場所は、旭川市二条通23丁目（11ページ「事業所一覧」参照）。二条通を東川方面に走ると突き当たる位置にあります。同一敷地内にツルハ、隣接地には旭川厚生病院が建っています。

店舗面積は573坪あり、当社が推進する500坪型店舗の第10号店になります。

テナントには、お菓子、クリーニング、ベーカリーが入っています。

営業時間は通常朝10時から夜の11時までとなっています。



Q

UICPayのサービスを始めました。

QUICPay（クイックペイ）とは、クレジット会社JCB様の提供による決済サービスのことです。

ご利用方法は、利用時にQUICPayカードか、携帯電話（※）を専用端末にかざすだけです。約1秒で、決済が終了します。

おさいふケータイの場合、チャージがないと使えませんが、QUICPayは、ポストペイ（後払い）タイプなので、チャージの必要がありません。

また、サインする手間もありません。もちろん、コインや紙幣もいりません。手軽に使えます。

現在使用可能店舗は札幌市の八軒店と旭川市の旭町店の2店舗ですが、順次大型店に導入の予定です。

（※）お手持ちの携帯電話の機種によってご利用いただけない場合があります。対応機種については、JCBホームページをご覧ください。

<http://www.jcb.co.jp/>



営業の概況

小売業界を取り巻く環境は、競合他社の出店に加え、業態間を越えた競争の激化で、買上点数の減少や商品単価の低下傾向に歯止めがかからず、全体的なお客様の購買行動は、一段と慎重さが見られる状況が続きました。

このような状況のもとで、引き続き当社は「消費者の毎日の食生活を豊かにするためのお手伝いをする」という、スーパーマーケットの社会的役割を果たすため、お客様の視点に立った商品作りとサービスの提供、これを支える従業員教育の推進と人材の確保に努めてまいりました。

さらに、お客様への利便性の向上策の一環として、ICカードまたは携帯電話を専用端末にかざすだけで買物ができる「非接触IC決済サービス」(クイックペイ)を「八軒店」(札幌ブロック)と「旭町店」(旭川ブロック)に導入いたしました。今後、順次導入を予定しております。

店舗につきましては、経営資源の有効活用、および店舗の大型化・標準化を図るため、平成17年3月に「アスパ店」(旭川ブロック)を閉店し、同月、直営売場面積500坪型店舗の第10号店となる「二条通店」(旭川ブロック)を出店いたしました。なお、当期末現在の店舗数は帯広ブロック12店舗、旭川ブロック9店舗、札幌ブロック1店舗(帯広ブロック管轄)、合計22店舗であります。

既存店の前期比につきましては、売上高および客数ともに、3.6%減少および2.7%減少と厳しい状況で推移いたしました。

これらの結果、当期の売上高は245億1千4百万円(前期比3.8%増)、経常利益は3億2千2百万円(前期比20.6%減)、当期純利益は「アスパ店」の退店に伴う費用1億7百万円と役員退職慰労金3千7百万円等の特別損失の計上により9千9百万円(前期比56.0%減)となりました。

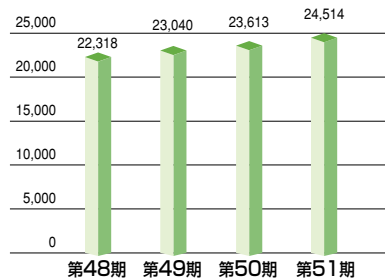
会社に対処すべき課題

今後の景気動向につきましては、原油などの原材料価格の高騰、米国や中国経済の減速懸念など不安定要因があるものの、企業業績の改善と設備投資の増加に支えられて、緩やかながらも持続性のある成長軌道をたどるものと思われまます。

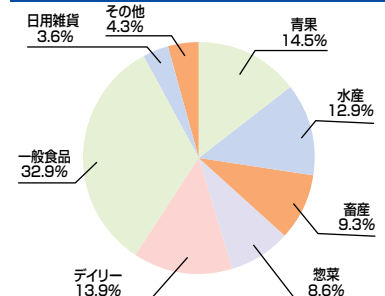
小売業界の消費動向は、家計所得の改善による個人消費の押し上げで、一部の業種や地域に明るい兆しが見え始めたものの、当業界においては、低価格化傾向の継続と企業間競争の激化により、依然として厳しい状況が続くものと考えております。

このような状況のもとで、当社は、スーパーマーケットの社会的役割を果たすため、今後もお客様の「普段の食生活の向上」に寄与することが最も必要な経営課題であると認識し、「第一に、食生活の質の向上。高品質、高鮮度はもとより、より安全で、安心できる商品の提供」、「第二に、お客様の生活状況に応じた商品の提供」、「第三に、環境保護の重視」といった基本方針のもと、「スクラップアンドビルドの推進」、「パートナー社員の意見を取り入れた売場作りと販売促進」、「競合店対策の強化とスピードアップ」を営業方針と定め、収益力の改善と企業価値の向上に全力で取り組んでまいります。また、従業員一人一人が真剣にお客様のことを考えて行動するとともに、「高い」の基本を地道に着実に実行し、お客様からのさらなる信頼の確保に努めてまいる所存であります。

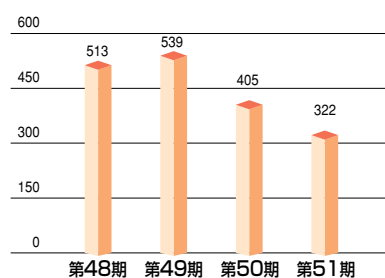
売上高 (単位:百万円)



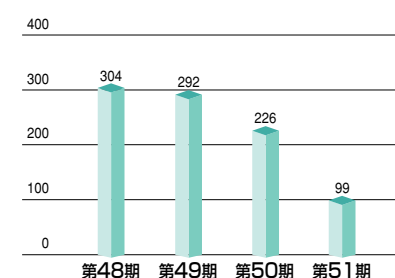
部門別売上高



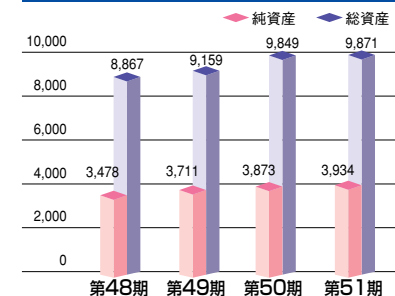
経常利益 (単位:百万円)



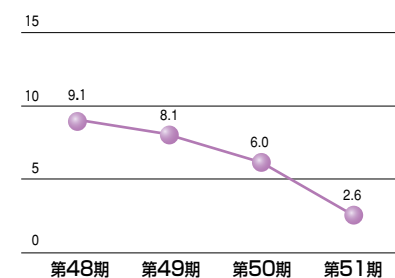
当期純利益 (単位:百万円)



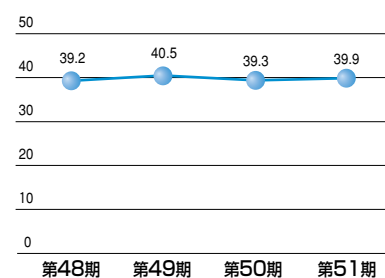
純資産・総資産 (単位:百万円)



自己資本利益率 (ROE) (単位:%)



自己資本比率 (単位:%)



貸借対照表（要約）

（単位：千円）

科 目	当 期 (平成 17 年 9 月 30 日現在)	前 期 (平成 16 年 9 月 30 日現在)	科 目	当 期 (平成 17 年 9 月 30 日現在)	前 期 (平成 16 年 9 月 30 日現在)
資 産 の 部			負 債 の 部		
流 動 資 産	1,645,591	1,780,078	流 動 負 債	2,651,979	2,678,506
現金及び預金	644,019	798,827	買掛金	1,350,005	1,418,896
売掛金	52,867	36,243	③ 短期借入金	100,000	—
たな卸資産	646,682	669,135	③ 1年以内に返済予定の長期借入金	523,382	500,163
繰延税金資産	75,758	92,839	未払金	139,571	128,247
その他	226,614	183,383	未払費用	227,936	240,616
貸倒引当金	△ 350	△ 350	未払法人税等	5,644	80,286
固 定 資 産	8,225,463	8,069,432	賞与引当金	157,181	169,485
① 有形固定資産	6,646,821	6,412,889	その他の	148,258	140,811
② 建物・構築物	3,594,710	3,361,148	固 定 負 債	3,284,743	3,297,542
土地	2,969,663	2,969,663	③ 長期借入金	2,521,871	2,491,503
その他	82,446	82,077	退職給付引当金	374,154	364,385
無形固定資産	31,759	29,483	役員退職慰労引当金	79,170	152,564
投資その他の資産	1,546,882	1,627,059	その他	309,548	289,090
投資有価証券	103,320	57,887	負 債 合 計	5,936,722	5,976,049
子会社出資金	3,000	3,000	資 本 の 部		
繰延税金資産	159,345	195,966	資 本 金	840,455	840,455
差入敷金・保証金	784,864	855,040	資 本 剰 余 金	767,302	767,302
その他	499,652	518,464	利 益 剰 余 金	2,294,154	2,256,591
貸倒引当金	△ 3,300	△ 3,300	株 式 等 評 価 差 額 金	35,039	10,759
資 産 合 計	9,871,054	9,849,511	自 己 株 式	△ 2,618	△ 1,648
			資 本 合 計	3,934,331	3,873,462
			負 債 及 び 資 本 合 計	9,871,054	9,849,511

記載金額は貸借対照表、損益計算書ともに、表示単位未満の端数を切捨てて表示しております。

POINT ①

有形固定資産の減価償却累計額
3,305,170千円

POINT ②

当期の設備投資額の総額は、有形固定資産の取得で539,293千円、保証金の支払で20,000千円の合計559,293千円であります。その主な内容は、二条通店の出店に伴うものであります。

POINT ③

当期の有利子負債は3,145,253千円で、前期と比べ、153,587千円増加しました。当期の調達額は、取引銀行3行より設備資金および運転資金として、総額700,000千円であります。

損益計算書（要約）

（単位：千円）

科 目	当 期 (平成 16 年 10 月 1 日から 平成 17 年 9 月 30 日まで)	前 期 (平成 15 年 10 月 1 日から 平成 16 年 9 月 30 日まで)
① 売上高	24,514,433	23,613,588
売上原価	18,577,756	17,885,173
売上総利益	5,936,677	5,728,415
営業収入	307,894	325,377
営業総利益	6,244,572	6,053,792
販売費及び一般管理費	5,887,099	5,626,248
営業利益	357,473	427,544
営業外収益	24,261	33,355
営業外費用	59,374	55,053
経常利益	322,359	405,846
特別利益	—	12,961
②③ 特別損失	144,254	9,522
税引前当期純利益	178,105	409,286
法人税、住民税及び事業税	41,293	203,812
法人税等調整額	37,258	△ 20,544
当期純利益	99,553	226,017
前期繰越利益	85,333	71,307
当期末処分利益	184,887	297,325

POINT ①

前期比売上高 103.8 %
前期比客数 103.6 %
前期比客単価 100.1 %

POINT ②

特別損失の内訳	
固定資産売却損	21,896千円
固定資産売却損	582千円
役員退職慰労金	37,006千円
賃貸借契約解約損	84,769千円

POINT ③

固定資産売却損の内訳	
建物	13,565千円
器具備品	546千円
その他	7,785千円

利益処分

（単位：千円）

科 目	金 額
当 期 未 処 分 利 益	184,887
これを次のとおり処分いたします。	
利 益 処 分 額	
利益配当金 (1株につき15円)	59,965
役員賞与金 (うち監査役賞与金)	8,600 (900)
計	68,565
次 期 繰 越 利 益	116,322

(注) 利益配当金は、自己株式5,634株を除いて計算しております。

配当政策について

当社は、株主の皆様に対する利益還元を経営の重要課題の一つとして認識しております。安定的な経営基盤の確保と株主資本利益率の向上に努めるとともに、安定的な配当の継続を業績に応じて行うことを基本方針としております。この方針に基づき当期の利益配当金につきましては、1株当たり普通配当15円といたしました。この結果、当期の配当性向は65.93%となりました。

キャッシュ・フロー計算書(要約)

(単位:千円)

科 目	当 期 (平成16年10月1日から 平成17年9月30日まで)	前 期 (平成15年10月1日から 平成16年9月30日まで)
営業活動によるキャッシュ・フロー	260,932	315,013
投資活動によるキャッシュ・フロー	△ 533,757	△ 1,034,576
財務活動によるキャッシュ・フロー	102,549	463,159
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増加額	△ 170,275	△ 256,402
現金及び現金同等物の期首残高	596,136	852,539
現金及び現金同等物の期末残高	425,860	596,136

■営業活動によるキャッシュ・フロー

役員慰労退職金の支払額が増加したことなどにより、前期末に比べ5千4百万円減少いたしました。

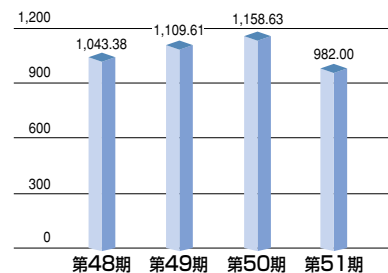
■投資活動によるキャッシュ・フロー

固定資産の取得による支出額が5億2千万円となり、前期末に比べ5億円減少いたしました。

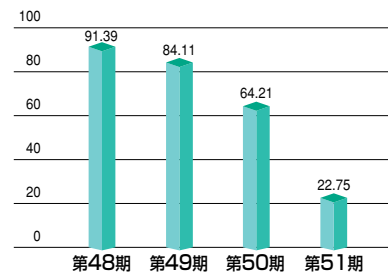
■財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入が5億6千万円減少したことなどにより、前期末に比べ3億6千万円減少いたしました。

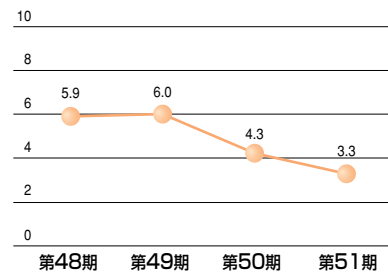
1株当たり純資産額 (単位:円)



1株当たり当期純利益 (単位:円)



総資本経常利益率 (単位:%)



数字でみる Daiichi

103.6%

今年度の客数前年対比率です。

今年度は概ね毎月前年対比100%を超えて順調に推移いたしました。

11月は既存店の客数が伸びず100%を割り苦戦しましたが、上半期前年同期比が103.1%、4月は新店効果もあり、下半期前年同期比が104.2%となりました。

厳しい小売業界のなかで前期よりも客数を伸ばせたことは、ダイイチファンという固定客が着実に増えていると自負し、今後もお客様が求めている商品、鮮度、品揃え、価格、接客の向上に努めてまいります。

前期比株主数の増加率です。

今年1月14日から、当社の1単元の株式数を1,000株から100株に変更いたしました。

それにより、株式の流通が活性化し、前期と比べ、個人株主が増加したことにより129.4%の伸び率となりました。

投資金額が10分の1になったことでより身近な株となり、かつ株主優待を実施していることから、ダイイチの名前が浸透してきたと思われます。また、初めて関東地方の株主数が地元北海道の株主数を上回りました。ここでも流通の活性化が表れた結果と大変嬉しく思います。

129.4%

事業所一覧 (平成17年9月30日現在)



- 本社** 北海道帯広市東5条南11丁目6番地
帯広本部 北海道帯広市西20条南1丁目14番地
旭川本部 北海道旭川市末広1条7丁目265番地
- 帯広ブロック**
 北海道帯広市 各号店 東店 西8条店
 啓北店 ハーモニー店 白樺店
 みなみ野店 帯広びっくり市 西帯びっくり市
- 北海道河西郡芽室町 めむろ店 ブックセンター
 北海道中川郡幕別町 札内店
- 札幌ブロック** (帯広ブロックの管轄)
 北海道札幌市 八軒店
- 旭川ブロック**
 北海道旭川市 西店 神居店 北斗店
 東光店 末広店 東旭川店
 旭町店 二条通店
- 北海道空知郡上富良野町 上富良野店
- センター**
 帯広市 惣菜センター 帯広配送センター
 旭川市 旭川配送センター

なお、平成17年3月15日にアスパ店を閉店し、同月26日に二条通店を新規出店いたしました。



Corporate Data

会社データ (平成17年9月30日現在)

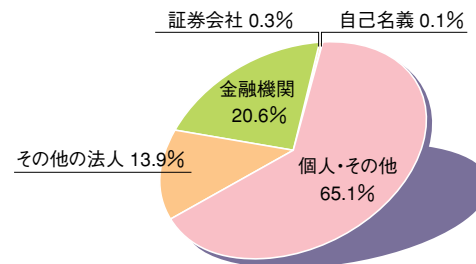
会社概要

商号 株式会社ダイイチ
 所在地 北海道帯広市東5条南11丁目6番地
 社設金 昭和33年7月11日
 資本金 840,455千円
 従業員数 241名 (正社員数)
 主要な事業内容
 1) 総合食品品の販売
 2) 日用品の販売
 3) 書籍、雑誌、文房具の販売
 4) 衣料用繊維製品の販売
 5) 家庭用電化製品の販売
 6) ペット用品、ペットフードの販売
 7) 酒類、煙草、印紙の販売
 8) 前各号に関連する一切の事業

役員

取締役会長 川上直平
 代表取締役社長 小西保男
 専務取締役 鈴木達雄
 常務取締役 若園清
 取締役 渡部朋充
 取締役 川瀬豊秋
 取締役 笹井俊治
 取締役 内藤龍信
 常勤監査役 杉森征四郎
 常勤監査役 堀内健三
 監査役 佐藤裕三
 監査役 笹井祐三

所有者別株式分布状況



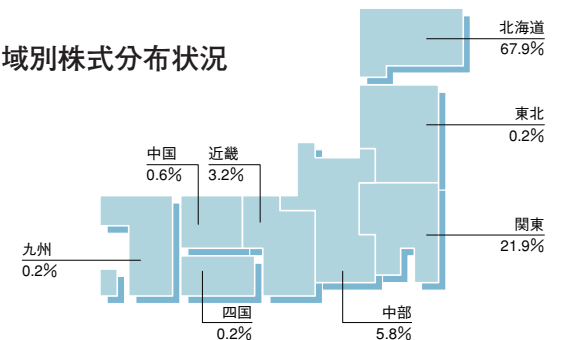
株式の状況

- ①会社が発行する株式の総数 12,000,000株
 ②発行済株式の総数 4,003,320株
 平成16年11月22日付をもって、1株を1.2株に株式の分割を行い、667,220株を発行いたしました。
 ③株主数 1,335名
 ④1単元の株式の数の変更
 平成16年11月8日開催の取締役会の決議により、平成17年1月14日付をもって定款の一部を変更し、「1単元の株式の数」を、1,000株から100株に変更いたしました。
 ⑤大株主

株主名	当社への出資状況	
	持株数	出資比率
川上直平	401,410株	10.02%
ダイイチ取引先持株会	170,700	4.26
株式会社北陸銀行	146,520	3.65
株式会社北洋銀行	120,000	2.99
商工組合中央金庫	115,200	2.87
ダイイチ社員持株会	114,400	2.85
株式会社みずほ銀行	100,800	2.51
若園清	100,600	2.51
内藤龍信	97,838	2.44
笹井清志	91,074	2.27

(注) 当社は、株式会社みずほ銀行の持株会社である株式会社みずほフィナンシャルグループの普通株式5株 (出資比率0.00%)、株式会社北陸銀行の持株会社である株式会社ほくほくフィナンシャルグループの普通株式190,093,463株 (出資比率0.01%) と優先株式20,000株、および株式会社北洋銀行の持株会社である株式会社札幌北洋ホールディングスの普通株式5株 (出資比率0.00%) を所有しております。

地域別株式分布状況



2006年IR・株式カレンダー

10月	月次報告開示
11月	月次報告開示・決算短信開示
12月	月次報告開示
12月22日	定時株主総会開催・事業報告書送付
12月23日	100株以上1,000株未満所有株主様へVISAギフト券発送
12月26日	有価証券報告書(EDINET)提出
これからの予定	
1月	月次報告開示
1月末日	株主優待希望申込締切
2月	月次報告開示・第1四半期業績開示(上旬)
2月下旬	株主優待商品券・VISAギフト券発送予定
3月	月次報告開示
3月31日	中間決算日
4月	月次報告開示
5月	月次報告開示
5月中旬	中間決算短信発表
6月	月次報告開示・半期報告書(EDINET)提出
6月上旬	株主優待グリーンアスパラ発送予定
7月中旬	株主優待長いも発送予定
7月	月次報告開示
7月下旬	株主優待メロン発送予定
8月	月次報告開示・第3四半期業績開示(上旬)
9月	月次報告開示・30日:決算日

見通しに関する注意事項

この事業報告書に記載されている計画、戦略および業績見通しなどは、将来の予測であって、リスクや不特定要素を含んでおります。従って実際の業績は、さまざまな要因により、これらと異なる場合があります。

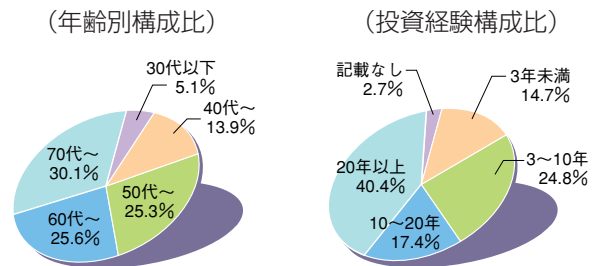
アンケート結果

アンケートにご協力いただき、誠にありがとうございます。昨年の回答者は362名で、回答率62.3%でした。皆様からいただいたご意見や激励のお言葉を真摯に受け止めて、今後の参考とさせていただきます。

今年のアンケートは、オンラインによる株式会社エーツメディアの提供する「e-株主リサーチ」を実施させていただくことになりました。事業報告書末尾をご参照のうえご協力いただきたくお願い申し上げます。

○アンケートのご回答をいただいたお方

(男性63.0% 女性27.3% 法人9.7%)



○貴重なご意見・ご要望より(抜粋)

- ・株主優待制度をこのまま続けてほしい。(男性・70歳代)
- ・確かなるビジョンでさらなるご発展を願っております。顧客の本当のサービスとは何かを絶えずご検討のほどを。(男性・50歳代)
- ・株主優待品は決して不満足ではないですが、選べる商品があと2点程あれば、もっと楽しみかと思えます。(女性・50歳代)
- ・消費者を裏切ることない商品開発、販売に努力していただきたい。それが目標達成に繋がることを念頭に頑張りたい。(男性・60歳代)
- ・現状レベルの配当が維持できることを期待しています。(男性・60歳代)

株主優待のお知らせ

平成17年1月14日より、1単元の株式数が1,000株から100株に変更したことに伴い、株主優待の内容が下記のとおり変更になりました。

1,000株以上を保有の株主の皆様は必ずご覧ください。

優待内容と申込方法について

100株以上	VISAギフト券1,000円(500円券、2枚)
500株未満	VISAギフト券を株主総会終了後、速やかに発送いたします。
500株以上	VISAギフト券2,000円(500円券、4枚)
1,000株未満	VISAギフト券を株主総会終了後、速やかに発送いたします。

1,000株以上

下記の中から1点をお選びください。

- A 当社商品券3,500円(500円券、7枚)
- B VISAギフト券3,500円(500円券、7枚)
- C 北海道特産品 グリーンアスパラ1.2kg (3,500円相当)
- D 北海道特産品 長いも5kg (3,500円相当)
- E 北海道特産品 メロン2玉 (3,500円相当)

ご希望の商品(A~E)を1品お選びいただき、添付のはがきにご記入のうえ、切手を貼らずにポストにご投函ください。

希望申込受付期間

お申込がない場合

平成18年1月末日到着分まで

- ① 店舗のある地域(十勝支庁管内、上川支庁管内、石狩支庁管内)の株主様に対し、当社商品券を贈呈します。
- ② 店舗のない地域の株主様に対し、北海道特産品メロン2玉を贈呈します。

1,000株以上の保有の株主様への商品の発送

- A 当社商品券は2月下旬
- B VISAギフト券は2月下旬
- C グリーンアスパラは収穫時季の6月上旬を予定
- D 長いもは春収穫分を7月中旬に予定
- E メロンは収穫時季の7月下旬を予定

商品について

店舗をご利用いただけない株主様に配慮し、今期からVISAギフト券を追加いたしました。北海道特産品はご好評いただいている3品を引き続き継続させていただきます。

